令和５年３月29日

松阪市長　竹上　真人　様

松阪市環境影響評価委員会
会長　朴　恵淑

松阪市新最終処分場施設整備事業に係る
環境影響評価準備書について（答申）

令和５年３月29日に諮問のありました、松阪市新最終処分場施設整備事業に係る環境影響評価準備書について、審議の結果、別添のとおり意見を付して答申します。

松阪市環境影響評価委員会
別紙（議案第１号）

・松阪市の新最終処分場建設に際して、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代から個人のレベルでの持続可能な発展及び自然と調和したライフスタイルへと変わっていく中で、最終処分場が私たちの日常生活と密接に関係していることを認識してもらうことが必要であり、次の世代を担う若い人達や子ども達に遠くから何か求めるものではなく、自分の毎日の生活の中から、もう一度環境について考えることによって、主体が変わり主役は私達だということが言えるよう松阪市が環境と社会的な調和とバランスのとれたサステナブルな社会のトップランナーとなる一つの大きなきっかけとなるように対処されたい。

・建設中に排出される温室効果ガス等については、再樹林化することでカーボンニュートラル（森林が吸収する CO2）と位置付け算出を行いつつ、生物多様性オフセット（保全）の考え方に沿って、建設により消失する森林や湿地環境に対して同等かそれ以上の面積の植生遷移や新たに浅い湿地帯を作る事で環境学習の場として郷土種を使った緑化（どんぐりから苗木を作り植栽を行う。郷土種の移植を行う。）を行うなど市民・事業者・松阪市による３者の協働活動による環境学習を実施されたい。

・30by30（サーティ・バイ・サーティ）の考えのもと、日常生活の中に生じる現状とその改善策を学ぶ環境教育プログラムを行い生物多様性の損失を食い止め、自然を増やして健全な生態系として効果的に保全することができるよう対処されたい。
　既に実施されている松阪市のごみ処理の基本方針や３Ｒの推進の観点から、市民・事業者・松阪市が協働し啓蒙活動による更なるゴミ削減に努められたい。